

はじめに

独法化を目前にした大学改革の中で、大学の統廃合、学部の統合再編の問題がにわかにクローズアップしています。大学の合併にあたっては、それぞれの共通した組織をどのように機能的にまとめていくかが問題になることでしょう。保健管理センターも例外ではありません。各大学の保健管理センターはそれぞれ特色を持って機能していますから、新しいセンターの今後の在り方について再検討を迫られることとなります。またとない改革のチャンスかもしれません。本学では今のところ他大学と合併して一つになる話は進んでいないようですが、このような機会に、保健管理センターという施設を現状にとらわれないで検討することも必要ではないかと考えています。昨年度の保健管理センター概要から、自己評価の項目をつくり、業務、機能の見直しを図ろうとしているところですが、現状を大きく変えるような試みはなかなか難しいことを実感しています。

大学は統廃合の方向に進んでおり、新たな大学新設の企画がないためか、文部科学省では保健管理センターの整備（新設）はほぼ終了し、一段落とみなしているようです。国立大学保健管理施設協議会がこれまで要求してきた教育研究施設としての位置付けについては、この整備が一段落してからというのが、従来の文部科学省の説明でしたから、これからは、組織の位置付けについても、これまでにとらわれない検討が出来やすくなるのではないかと期待されます。

大きく変動するこの機会に、これまでの殻を破って、学生の健康管理と健康教育に新しい試みが出来ることを願っています。（今回より概要を年報に改めました。）

平成14年2月

長崎大学保健管理センター

所長 石井伸子